

城山小学校 第865回 平和祈念式 令和5年9月11日



城山小学校にとって特別な日である8月9日は、長崎へ台風が直撃して登校日がお休みとなり、平和祈念式を行うことができず、ひと月延期としました。今日は、8月9日に予定をしていた第865回の平和祈念式を行います。「平和は城山から」という言葉は、長崎市内すべての小学校の人が「そうだね。」と感じる言葉です。8月9日は、城山小学校にとっては特別な日です。今から78年前、長崎に世界で2発目の原子爆弾が落とされました。たった1発の原子爆弾によって、7万人以上の方が亡くなり、7万人以上の方が傷を負い、市内の戸数の36パーセントに当たる2万戸近くの家が壊れたり、焼けたりして、長崎の街は、大変な被害を受けました。ここ城山小学校も一瞬にして破壊され、先生方や児童1,400名以上が犠牲になったことは、皆さんがよく知っていますね。

さて、6月に田川博康さんの被爆体験の交流証言者として活動する久家先生の思いをお聞きしました。「長崎で生まれ育ち、原爆のこと、平和のことを伝えていかなければならないという気持ちを持つようになった。自分の身内に被爆した者はいないけれど、何か自分にできることはないかと、と考えているときに、「君以外のひとりの人に、平和の思いを伝えてほしい。」と田川さんからお話があり、7年前に交流証言者となり活動を始められたとのことでした。みなさんは、久家先生から思いを託されました。「平和とは、家族や友人を大切にすることから始まる。自分の足元をしっかりと見て、一人の人はいないかな？悩んでいる人はいないかな？」と感じることの大切さ、そして、平和の思いを家族や友人に伝えてほしい。」と。

城山小学校は、今年で創立100周年を迎えました。城山小学校の100年の歴史の中には、初めてお話ししたように、多くの方が命を亡くし、つらく、悲しい思いをする出来事があったことを忘れてはいけません。みなさんの先輩方の思いや願いを受け継いでいかなければなりません。校長先生はもう一つみなさんに考えてほしいことがあります。創立100周年を迎えた今、これまで平和についてお勉強したことを使ってもう一つステップアップしてほしいのです。難しいことではありません。周りの友達と話し合い、友達の気持ちを察し、互いの考えのよさを認めること。そして、お互いがいい気持ちになる方法を考え、考えたことを友達と一緒に行動に移すことです。このことの繰り返しは、平和の世の中をつくる始まりだと考えています。みなさん、今日は平和のために自分が今日から始めることを、改めて考えてほしいと願っています。

原爆の悲惨さを継承し、平和の尊さを発信していくのは、城山小学校で学ぶ私たち一人一人の使命です。「平和は城山から」を胸に、平和な未来を築いていくことを一緒に誓いましょう。